

瑞姫 / 河内音頭 櫻川と黒鷲 ～ 幡随院長兵衛傳より

ZASHIKI RECORDS ZASK-005

価格 ¥2,800 (税抜)、¥3,080 (税込)

発売開始日 2020年7月26日予定

取扱い メタカンパニー

JAN 4580049920027

- | | |
|------------------|-------|
| 1. 河内音頭櫻川と黒鷲 (上) | 18:10 |
| 2. 河内音頭櫻川と黒鷲 (下) | 16:50 |
| 3. 河内音頭浪花慕情 | 5:51 |
| 4. 河内音頭櫻川と黒鷲～枕より | 4:39 |



録音メンバー

瑞 姫	TAMAKI	音頭 (Vocal)
赤江真理子	AKAE Mariko	和太鼓 (Japanese Drum)
東ともみ	AZUMA Tomomi	ベース (Bass)
虹友美	NIJI Tomomi	三味線 (Syami-sen)
生駒竜也	IKOMA Tatsuya	ギター (Guitar)
山中一平	YAMANAKA Ippei	お囃子 (Chorus)
生駒尚子	IKOMA Naoko	お囃子 (Chorus. Track #1, #2, #4)

録音 CSE Recording Studio

Producers: 山中一平&いちばけい

Recording & Mixing: 藤塚雄一 (CSE Recording Studio)

Assistant Engineer: 黒石采華

Mastering: 橋本陽英 (AUBRITE MASTERING STUDIO)

Photo: 上本紀子、Each Bar Kei

撮影協力: 喫茶野ざらし、矢先稻荷神社

Design: Each Bar Kei

Coordinator: 刈谷仁路志 (株式会社下町通信社)

お問い合わせ先

ザシキレコーズ (ZASHIKI RECORDS)

いちばけい

eachbarkei@gmail.com

090-1826-0149

瑞姫プロフィール

東京都江戸川区出身。大学卒業後、アパレルメーカー勤務を経て、1993年浪曲師二代目東家浦太郎に入門。「太田ももこ」の芸名で修行を重ね、97年4月東京芸術劇場で名披露目公演の成功で注目を集め、テレビ・ラジオにも多数出演するとともに、浅草木馬亭や横浜にぎわい座、国立演芸場等を始めとし全国の舞台で積極的に活動を展開。

また、公演活動のほか勉強会の開催、浪曲教室講師も務めつつ、浪曲への飽くなき可能性への探求心から、浪曲劇や人形劇、新作落語やコントとのコラボレーション、音頭や甚句など諸芸への挑戦を続ける。そして、更なる高みを目指して女流浪曲の第一人者松平洋子に師事し、2011年名を「瑞姫（たまき）」に改め、より次元の高い浪曲の実現に向けて日々取り組んでいる。

音頭については、12年頃から浪曲の源流を学ぶため、貝祭文の第一人者である二代目櫻川雛山に師事し、江州音頭を身につけ、14年には伊賀七夕フェスタに音頭取りとして出演。17年頃から台本を徹底的に洗い直し、江州音頭や河内音頭を取り入れた瑞姫ならではの特徴ある節遣いの浪曲作品を展開。そして、19年3月から山中一平に河内音頭の本格的指導を受け、本場大阪の盆踊りやすみだ錦糸町河内音頭大盆踊りに出演した。

■主な活動

NHK FM 浪曲十八番、NHK 総合テレビ「コロケぱらだいす ごきげん歌謡笑劇団」の芝居コーナーでナレーション、「東西浪曲特選」（横浜にぎわい座、浅草木馬亭）、韓国・江原道人形劇フェスタ（2014）等

毎年2回浅草木馬亭で「瑞姫の浪曲を聞く会」を主宰。2020年は9月に開催を準備中
株式会社マジカル「離煙パイプ」「ウメばぁ」「八漢湯」広告に出演中

■代表作

「関取稲川重五郎江戸日記」、「亀甲縞治兵衛」、「北斎と文晁」、「お里沢市物語」、「相馬大作・小湊の巻」、「荒木又右衛門奉書試合（市川俊夫脚色）」、「任侠流れの豚次伝（三遊亭白鳥・作）」（新作）、「SAS 児童会総選挙」（新作）等

■ウェブサイト

浪曲師瑞姫（たまき）でございます。 <http://roukyoku-tmk.com/>

YouTube 瑞姫（たまき）チャンネル

<https://www.youtube.com/channel/UCmjoXvcXYUyRWraEFddvJ-Q>

「瑞姫 / 河内音頭 櫻川と黒鷲 ～ 幡随院長兵衛傳より」の聴きどころ

いちばけい

◆モノガタリの世界

河内音頭は、歌舞伎やお芝居、講談、それに事件などを題材に人間模様を描いた物語が、太鼓や三味線、更にはギターのリズムに乗って唄われます。

本作は、江戸時代初期の代表的な侠客で、町奴（まちやっこ）の代表格である幡随院長兵衛と対立する旗本奴（はたもとやっこ）・水野十郎左衛門（1630-1664）、それにこの唄のタイトルになっている「櫻川と黒鷲」という二人の力士の物語です。時代は、関ヶ原の戦いから約50年経った正保時代（1648年頃）の話で、その時代、若い旗本やその家来などが旗本奴と呼ばれ徒党を組み乱暴をはたらく一方、幡随院長兵衛（1622?-1650?諸説あり）を代表とする町奴との争いが、大きな問題となっていました。

さて物語ですが、巡業先から無一文で江戸に帰ってきた若い相撲取り櫻川五郎蔵を長兵衛が助けた縁で、長兵衛は櫻川を最頂にします。一方、配下の白柄組（正しくは、大小神祇組）を引き連れ対立する旗本奴の水野十郎左衛門は、上方出身の相撲取り黒鷲勘太夫を最頂にします。

長兵衛の応援を得て櫻川は、どんどん力をつけ、そして遂にこの二人が対決する日がやってきました。対決前日、櫻川は長兵衛を訪ね激励をうけ、黒鷲も水野十郎左衛門に「負けると、当家への出入りは許さん」とこちらも白柄組総出で応援に行くこととなります。

どちらも負けられない一戦。長兵衛の一統と白柄組が見守る中、大一番の軍配は櫻川に上がります。納まらない水野と配下たちは、水野屋敷に黒鷲を呼びつけ、櫻川を呼び出すよう手紙を書けと迫ります。そして届いた手紙を読んだ櫻川は、母親が止めるのを聞かず、浅草松が谷の矢先稲荷神社に向かいます。そして……。

◆河内音頭と浪曲師

河内音頭は、古くから大阪の河内地方を中心に歌われてきた盆踊り唄を源流としつつも、大正末期から昭和初期に、初音家太三郎らによって義太夫や浪曲の要素を取り入れた現代風の音楽として確立され、更にそれに鉄砲光三郎が洋楽のリズムや歌謡曲風の節などを取り入れて1961年にこの民謡鉄砲節をテイチクレコードからリリースし人気を呼びます。そしてその後、初音家賢次や鉄砲博三郎、三音家浅丸、生駒一といった河内音頭の名人たちのレコードが続々とリリースされていくこととなりますが、その中には、浪曲師による河内音頭も数多くリリースされ人気を博しました。

特に人気が高く、今も愛され続けているのが京山幸枝若（先代）で、1960年代半ばから河内音頭を録音し、河内十人斬りのほか、東西男くらべ、会津の小鉄シリーズなど多くの河内音頭を発表しました。1970年代、浪曲師では真山一郎（初代）、広沢駒蔵、小松千鶴（三原佐知子）、更に東京を中心に活躍する中村富士夫らも河内音頭をリリースし人気を集めます。しかしながら、1980年代に入って、河内音頭自体のレコード発売が減少し、浪曲師によるレコードの発売はほとんど見られなくなってしまいます。

◆浪曲師瑞姫と河内音頭

今回、河内音頭に挑戦した瑞姫（たまき）の本作は、浪曲師による河内音頭としても随分久しぶりの作品となりますし、東京の浪曲界からは、中村富士夫以来約46年ぶりのリリースとなります。そして瑞姫は、東京生まれの東京育ち。身内に関西の縁者がいるわけではありませんので、そういう意味でも、本作は、東京都出身浪曲師による異色の河内音頭への挑戦となります。

本作では、セリフ廻しに定評のある瑞姫の語り口調は、河内音頭のリズムの中で活き活きと表

現され、最近の河内音頭取りの録音では聞かれることの無かったストーリーを身近に感じさせる作品に仕上がっています。また、浪曲で鍛えたノドと節回しは圧巻で、音域の広さを使って自由に唄う本作は、上下合わせて 35 分という長尺の河内音頭であることを感じさせない内容となっています。

◆演奏について

実は、河内音頭には譜面がありません。そして小節などの決めごとありません。音頭の唄い手（音頭取り）が、伴奏陣の太鼓や三味線、ギター、ベースを聞きながら、歌い出すタイミングや節の強弱長短をその都度決めながら唄うことから、必然的に録音は、所謂一発録りとなります。

今回の録音は、瑞姫にとって生まれて初めてのレコーディングで、本人も「前夜寝られなかった。」と語っていましたが、レコーディング当日はリラックスし、「河内音頭桜川と黒鷲（下）」は、何度かテイクを重ねましたが、「河内音頭桜川と黒鷲（上）」と「浪花慕情」、「河内音頭桜川と黒鷲～枕より」は、すべてワンテイクという驚異的な仕上がりになりました。

プロデューサーは、節の魔術師山中一平。全編書下ろしとなった本作の節付けをすべて行うとともに、浪曲師瑞姫の節の指導を本番まで続けました。

また、録音メンバーは、関西を拠点に活躍するジャズベーシスト兼作曲家の東ともみや、河内音頭シーンで活躍する代表的な三味線ニスト虹友美、河内音頭界でアグレッシブなギターでは右に出るものがない名人生駒竜也が参加。「河内音頭桜川と黒鷲（下）」の後半や「浪花慕情」などでも、河内音頭ではとても珍しい、少しくランチ気味のギターサウンドとともに、そこに飛び込んでくる三味線のアンサンブルがとても面白い仕上がりです。また、太鼓の赤江真理子の太鼓の抜けの良い音と他の音頭の太鼓叩きには無い独特のコバチ（胴本体の部分をつ。カッカッという音になる。）で河内音頭らしいグルーヴ感を感じさせる楽しい作品となりました。お囃子には、歌手の生駒尚子とプロデューサーを務めた山中一平が参加。「河内音頭浪花慕情」では、男声ひとりのお囃子となっていて、こちらも聞き所満載です。